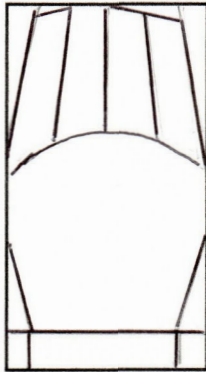


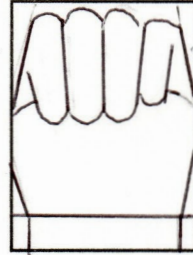
握り手 5

親指を分けてしまったら、それは置いておき、**親指以外を一つの塊**として捉えます。



指は指の付け根から先端に向かって細くなっている。この形が非常に重要

これを握ると右のような形になります。



- 握ると指先が中心に向かう。
- 先端が内側に入ってしまったため人差し指、小指の付け根の位置が見える。
- 真上から見ると各指、根元から先端まで直線

形を文章で説明すると非常に煩雑で分かりにくいものになります。そのため、細かいことは抜きにして大事な見方、考え方を抑えましょう。

手を彫るには正面、側面の2面で木取をする。

親指を分ける。

親指が分かれば、手のひらと4本の指は一つの塊としてとらえ、形を整える。

手の平、もしくは甲と指を分ける。

指の付け根の位置、形、厚みが見えた時点で4本の指を書き込む。

そのまま握れば握り手だし、開いたまま一本一本を動かせば開き手です。

考え方の根本は握り手も開き手も同じです。

これでは何を言っているのか全く見当がつかないと思いますがただ写真や見本を見て真似るだけでダメそう、基本的な考え方というのがあるらしい、というのに気づいてもらえるだけで初めは十分です。

